

発 湯 監 第 1 6 号
平成 2 4 年 8 月 1 0 日

湯梨浜町長 宮 脇 正 道 様

湯梨浜町議会議長 前 田 勝 美 様

湯梨浜町代表監査委員 磯 江 俊 二

湯梨浜町監査委員 浦 木 靖

平成 2 4 年度第 1 回定期監査報告書

湯梨浜町監査委員条例第 4 条第 1 項の規定により、平成 2 4 年度第 1 回定期監査を実施したので、地方自治法第 1 9 9 条第 9 項の規定により、その結果を次のとおり報告する。

記

1 監査の目的

- ・ 今回の監査は、当町における合併後初めての総合的な施策展開ともいえる「東郷湖活性化アクションプログラム（行動計画）」に関連する各事業の取組み状況について審査を行った。
この行動計画は、平成 2 3 年 1 2 月の「東郷湖・未来創造会議」からの提案を受けて、東郷湖及びその周辺地域の魅力を最大限に活かし、湯梨浜町の活性化ひいては町の未来へ向けて、今後 5 年間に、さまざまな取組みを総合的に実施して行こうとするものである。行動計画の内容は、広範・多岐にわたり、役場内のほぼすべての課が関与することになっているが、それだけに、これまでよく見受けられた「計画は素晴らしいのだが、事業実施の段階になると担当事業の遂行のみに目が向き、当初の目標が達成されたかどうかは不明。」の結果に終わることも危惧される。
- ・ このため、今回の監査では、役場内で、この行動計画が目指す目的がどこまで共通認識された上で事業実施されようとしているか、及び今後 5 年間の総合的な推進体制がどのように確立されているかを重点に審査を行った。

2 監査の実施日

平成24年6月28日・29日

3 監査の方法

- ・ 事務局（企画課）からの説明及び書面の提出を受けて、あらためて「東郷湖活性化アクションプログラム」の内容を確認するとともに、現在の事業推進体制、各事業の着手状況等について点検を行った。

4 「東郷湖活性化アクションプログラム」の概要

(1)

- ・ このアクションプログラム（行動計画）は、昨年度、「地域にある様々な資源の魅力向上を図りながら、時代のニーズに合った、湯梨浜町ならではの魅力あるまちづくりを、町民との協働により実現する」ことを目的に組織された東郷湖・未来創造会議に、多くの町民が参画し活発な議論・検討の上で取りまとめられた提案をベースに、町全体で東郷湖並びにその周辺地域の魅力向上を通してわが町の活性化を目指す。そして、その目標に向かって、今後5年間に各分野が連携を取りながらさまざまな事業を展開して行こうという総合的な施策体系である。
- ・ 行動計画の施策体系（内容）は、別紙に示すとおりであるが、あらためてこの内容を見てみると、従来のいわゆる大型施設建設や道路の開通等を契機として地域の活性化を目指そうというハード型の計画と違い、この地域が既に有している資源を再発見し、更に磨きをかけ、総合的に発信して行こうとするソフト型の総合的な取り組み計画と理解することができる。

その意味から、この行動計画は、時代のニーズに沿った的確な視点と会議に参画された方々のわが町に対する熱い思いを感じることができ、町にとって是非とも実現させなければならない計画であると思うところである。

(2)

- ・ アクションプログラム（行動計画）では、「天女」を共通シンボルとし、「天女も惚れたリゾート地」・「女性が主人公となるリゾート地」をキーワードとして10の個別プロジェクトに区分され、その中で30を超える具体的事業の実施が予定されている。

この中には、例えば東郷湖畔の周辺ウォーキングルートを完成させるための歩道整備やウォーキングステーションの整備、観光案内版の再点検と整備など、一部には工事を伴う事業も計画されているが、大半はボランティアガイドの育成や地域特

製品のブランド化、商品力アップ等行政のみでは達成不可能で、多くの町民の参加、取組みがキーとなるソフト型の事業で占められている。

(3)

- ・ 一般に、多くの総合プロジェクトでは、計画・構想の案は素晴らしいが、いざ事業実施の段階になると、事業の遂行が最優先となり計画自体の成果・目標が見えなくなるという欠点に陥りがちであると言われる。また、今回のような住民参加型や人材育成のようなソフト事業は、その成果が直ちには現れにくい取組みであり、特に事業実施の段階では常に共通目標を確認し、全体的な成果や進捗状況を検証しながら進めていくという推進体制の確立が重要となってくる。

- ・ 執行部では、平成24年1月に町としてのアクションプログラム（行動計画）を作成し、それぞれの事業担当課を定めて、全庁的な取組を進めていくこととしている。

現在、既に予算化され着手した事業、関係機関と具体的な交渉に入った事業等（これらは総じて事務局である企画課が担当するものに多い。）もあるが、中には制度設計や取組の方向性等を含めて今後検討を進めて行くという事業も見受けられる。

町では、今後2ヶ月ごとに開催される関係課長会議（主要事業進捗確認会議）において、プロジェクト全体の進展状況を確認しながら推進して行くとのことであるが、この確認の場では単に各事業ごとの進捗状況を点検するだけでなく、併せて全体の成果目標や進捗度合いについても討議・検証して行くことが肝要であろう。

5 所見

(1) 「東郷湖活性化プロジェクト推進会議」と「東郷湖・未来創造会議」の関係整理について

- ・ 現在、町には東郷湖の活性化を目的とする組織が二つ設置されている。

◎ 東郷湖活性化プロジェクト推進会議（平成20年5月設置）

役割：東郷池を町のシンボル（宝）とし、各関係団体が行っている事業について情報を共有し、連携を深めながら総合的な観光振興、農林水産業振興及び文化等を推進する。

構成：各事業団体の代表者、学識経験者、行政（町・県地方機関）の代表者外

◎ 東郷湖・未来創造会議（平成23年8月設置）

役割：地域の宝である東郷湖のポテンシャルを最大限に活かし、湯梨浜町の魅力を高めるため、町民との協働による魅力あるまちづくりを推進する。

構成：NPO、住民グループ・ボランティア団体等の活動団体、町民等

- そして、今回の行動計画は、東郷湖・未来創造会議からの提案を基に取り組んでいるところである。

二つの組織とも、これまで東郷湖に関連する事業は数多く実施されてきたが、各事業間の連携が弱く、総合的な発展戦略がないという観点から設置されたものである。しかし、手法の違いはあるが、双方とも似たような役割を担った組織であり、町民にとって（町職員も双方の役割を適切に理解できているものは少ない。）わかり難い二重体制となっている。
- 両組織とも、今後も継続され、平成24年度予算にも所要経費が計上されている。そして、この行動計画が実施段階に入った後は、未来創造会議の代表者にもプロジェクト推進会議のメンバーに加わってもらい、各事業の取組状況等について報告をしてもらうとのことであるが、しかし、このような体制では今回の行動計画による各事業が埋没してしまい、プロジェクト推進会議のもとの一分野の取組みとの位置付けのように誤解されてしまうことにならないか。また、未来創造会議の今後の活動意欲の低下にならないか。危惧するところである。
- そもそも、町では、東郷池に関連する各種事業の相互連携と総合的な取組みの展開を図るため、平成20年5月に、活性化プロジェクトを設置したところであるが、しかし、行政機関の代表者や各事業団体の代表者で構成する組織での意見交換や取組み状況の報告では何らの新しい動向が開けなかった。このため、平成23年8月に自ら積極的に活動したり、意欲を持った町民による未来創造会議を設置して、ようやく今回の町民目線での総合的な戦略体系がまとまり、今回の行動計画として結実したのではなかろうか。

そうだとすれば、行動計画取組み開始のこの機会に、例えば、従来のプロジェクト推進会議は「〇〇調整会議」に名称変更して、利害関係を調整する。あるいは廃止を含めて新たな推進体制を明確にする等、改めてこの行動計画に対する町民の推進体制について再検討し、計画の円滑な実現に向けての町の強い意欲を示す必要があるのではなかろうか。

(2) アクションプログラムの成果・目標について

- この行動計画の成果・目標について、あらためて考えてみた。一般に、多くのプロジェクトが「観光客〇万人の増加」とか「漁獲量〇%の増」等の目標を掲げるが、このような目標は各事業団体等の目標としては適当かもしれないが、行政が策定する計画の成果・目標と位置づけるには不適當な場合が多く見受けられる。

そもそも、行政の役割は、各事業者が努力して前掲のような数値目標が実現できる、その環境を整えていく役割であるし、この計画は東郷池及びその周辺地域の魅力を最大限に活かし、町の活性化、ひいては町の未来に向けて町民と協働で取り組んで行こうとするものである。
- そうだとすると、この行政によるアクションプログラムに共通する成果・目標は、

「東郷池の魅力再認識し、多くの町民の方々が様々な取組みに参加・体験することを通して、自分たちの誇りと感じ、わが町の自慢とする。そういう町民の方々がいかに増加してきたか？」が評価の指標となるのではなかろうか。

「まず多くの町民の方々がわが町に誇りと自信を持つ。そして口に出して話題とする」。そのような雰囲気町内に溢れれば、自ずと外部の人にも地域の魅力は伝わっていくものと確信するところである。

- ・ このような意味から、各取組みの成果を検証する際には、それぞれの事業についての町民参加の状況を評価指標の一つとして考えるべきであろう。

(3) 歴史・文化資源の案内説明方法について

- ・ この地域には、緑豊かな自然・景観、温泉、水産物等のほか散策等に適した広さ、多様なイベントの開催や施設の充実、歴史・文化資源など人々にとって魅力的な素材が揃っている。

一方、近年の観光動向は「見る」、「食べる」、「遊ぶ」に加えて、「知る」、「学ぶ」という知的体験のウェイトが重要となっていると言われている。

東郷池周辺地域は、まさに、これらの多様な要素をすべて揃えた地域である。

- ・ 特に、湖周12kmの周囲には縄文時代（潟湖、貝塚）、弥生時代（馬の山古墳、北山古墳）、奈良時代（倭文神社）、平安時代（荘園）、室町時代（羽衣石城、浪人踊り、馬の山土塁跡）、戦国時代（馬の山古戦場）、江戸時代（橋津藩倉、台場跡）等数千年に及ぶ歴史・文化の足跡が数多く残っている。

しかし、これらの歴史・文化資源は、他の自然景観や温泉、水産物等の素材と違って、直ちに目に触れたり、食したりできるものではないため、適切な案内説明がなければ、観光客はもとより地元町民の方々にとっても見過ごされてしまいがちである。

今回のアクションプログラムでは、ボランティアガイド養成事業や湯梨浜検定システム構築事業等わが町の歴史・文化に関心の高い人々を養成する事業が組み込まれているが、これらの事業に併せて、豊富に点在する魅力的な歴史・文化資源の足跡を誰でも、いつでも、気軽に理解できる仕組みが大切だと思えるところである。

今回、既存の案内板を点検し、再整備を行う観光案内板整備ネットワーク化事業が計画されているが、これらの整備に当たっては、例えば総合案内板には現在の案内図と平安時代の荘園図を対比させて1200年前の姿を表現する、あるいは馬の山古戦場の案内説明板には当時の秀吉軍と毛利軍の布陣図を活用するなどを考えてみてはどうだろうか。

6 おわりに

- ・ 先日放映されたNHK「俳句王国がゆく」の中で入賞作の一つに「みおろせば湖（うみ）かがやきて袋かけ」（町内野花在住）の句が選定されていた。なぜか共感できる句で思わずテレビの前で「うん、うん。」と頷いてしまった。東郷池は、私たちにとってあまりにも身近な存在であるため、これまで私たちは私たちの生活に大きな影響と恩恵を与えてくれていることを見過ごしてきたのではなからうか。

また、以前に大山地域の活性化に取り組んでいる知人が「東郷池周辺の地域は羨ましい。美しい自然や温泉、特産物、歴史などの魅力的な素材がコンパクトに集まっている。」と言っていたことを思い出した。

- ・ 厳しい財政状況の中ではあるが、行政と町民との協力により湯梨浜町ならではの魅力あるまちづくりを目指すこの行動計画には、既に行われている事業を更なる魅力アップを工夫しながら引き続き実施していくものも多い。7月18日付の日本海新聞には、京都府舞鶴市から参加された71歳の男性からの「ホワイトライアスロン大会」に対する感謝の記事が掲載されていた。観客としても、スタッフとしても参加していない私であってうれしい気持ちになった。

このアクションプログラムで実施される種々な取組みを通して、行政と町民による活力あるまちづくりに向かって、大きな成果をもたらすことを改めて期待するところである。

